



ADRC Highlights

Vol.28

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

July 18, 2001

➤ ADRC 客員研究員レポート

ソー・バン・ヒーン



東南アジアに位置するカンボジアは、洪水、干ばつ、嵐といった自然災害の非常に多い国です。自然災害に加えて、カンボジアでは戦争や火事などの人的災害も起こっています。他のアジア諸国と同様カンボジアでは、こうした災害の中で洪水による被害が、年間を通じて最も大きなものとなっています。アジアにおける洪水は、近年非常に激しくなっており、特にこの数年間では非常に大きな被害をもたらしています。

カンボジアの 2000 年度の洪水は、歴史上最悪の被害となる全く予想外の大規模のものでした。過去の記録の中で最も長びき、被害地域は広く、被害の大きさも甚大でした。21 地域の 750,618 世帯が被害を受け、688,021 ヘクタールの消費用および商業用作物が損害を被りました。また、多くの建物やインフラが壊滅的な被害を受けました。このように甚大な被害を及ぼした洪水によって、カンボジアにおける災害対策をもっと改善し、強化していかなければならないという認識に達しました。

この結果、国家災害対策センター(NCDM)総務局は国家レベルから地方レベルまでの職員の能力向上のための活動分野に目を向けています。NCDM は、国家レベルでまず災害軽減・防止のためのプランを実施し、ついで州・地方レベルの職員にそのプランを適用していくことを考えています。

こうした災害に弱い国家から来た客員研究員として、私は ADRC メンバー国と災害情報を共有し、そこから学んでいくことを心から望んでいます。情報共有以外には、災害軽減や災害対応についての研究を行っていきたくと思っています。ADRC の WEB では、インターネットを利用した GIS システム「ペンテン」を含め、世界各国の研究者に数多くの災害対策情報を提供しています。私が客員研究員として ADRC の一員として勤務を始めて 1ヶ月が経ちました。ここでの経験は大変満足のものだと思っています。これは、知識を分かち合うことに熱心な ADRC のスタッフのすばらしいサポートのおかげです。

最後に、カンボジアの NCDM が災害軽減のための能力開発プログラムを開催するのに ADRC ご尽力をいただいたことに対し心から感謝したいと思います。ADRC のサポートのもと、NCDM は Cham, Kandal, Pursat の 3 つの災害に対し脆弱な地方において、トレーニングプログラムを実施することができました。また、ADRC が私に客員研究員として勤務する機会を与えてくれたことに対しても非常に感謝しております。この経験は NCDM に災害軽減と対策のための専門知識と新しい技術を与えてくれるものと思います。

<So Ban Heang, カンボジア国家災害対策委員会総務局科学技術部署事務局長>

➤ ADPC との協力推進

アジア防災センター(神戸)と Asian Disaster Preparedness Center (ADPC, タイ国バンコク)は、かねてより防災に関する情報共有や防災教育などで協力してきました。

このたび、両組織はアジア地域の防災力向上のため、より一層の協力をしていくことについて、2001年6月28日タイ国バ



ンコクにおいて覚書きを交わしました。

調印式には、アジア防災センターから小川雄二郎所長、ADPC から Suvit Yodmani 所長が出席し、ADPC Board of Trustees のチェアマン Dr. Krasae Chanawongse (タイ国現職大臣)、赤尾駐タイ日本大使が臨席しました。さらに、アジア太平洋地域の防災機関である EMA (Australian Emergency Management Institute)、SOPAC (South Pacific Applied Geoscience Commission) の代表も出席し、協力体制の強化に期待を表明しました。

➤ 会議開催のお知らせ

□ Symposium on Best Practices in Humanitarian Information Exchange

国連人道問題調整事務所(OCHA)は標記のシンポジウムをスイスのジュネーブで開催します。9月17日、18日には小規模集中ワーキングミーティングを実施、9月19日、20日にはパネルディスカッションとプレゼンテーションを行う本会議を開催します。

シンポジウムでは、さまざまな人道問題に関する活動からの教訓を再検討し、緊急援助プログラムの調整に利用される情報の共有や普及をいかに促進していくかについて討議します。

会議は、国際機関、各国政府、NGO、研究者、マスコミ、民間機関で情報の収集、普及、管理に携わっている国際的な人道問題専門家を対象としています。

さらに詳しい会議に関する情報は、下記のホームページで入手することができます(<http://www.reliefweb.int/symposium>)。また、ご質問などあれば会議実行担当の Mr. Dennis King (kingdj@un.org)までお問い合わせください。

□ Int'l Exhibition for Disaster Control and Emergency Treatment Services

上海市市民防衛局は、2001年9月18日から20日に上海国際会議場において国際災害対策・緊急対応博覧会を開催します。災害対策技術、教育、機器などが展示されます。さらにイベント期間中にはさまざまな関連フォーラムやセミナーが開催されます。詳しい情報は Mr. Kwan Chu (enesjonathan@ctmail13.com)まで。

➤ アジアにおける最新災害情報

□ 韓国で洪水発生

韓国において7月14日からの洪水により、数十人に及ぶ被害が出ています。この洪水は、37年ぶりの大雨によってもたらされました。7月15日の一夜で水位は31.1センチメートルまでに及び、首都ソウルとその周辺で最も人口が密集している京畿道で34,000世帯が浸水しました。7月16日現在、45人が亡くなり、9人が行方不明となっており、145世帯が壊滅的な損害を受けました。

□ フィリピンと中国で台風による大被害

7月4日、台風 Utor によってフィリピンのルソン島北部で地すべりと洪水が発生しました。163人が亡くなり、180名が負傷、60名が行方不明になっています。およそ100万人が影響を受け、合計で3,700万米ドルの損害が出ました。(インフラ1860万ドル、農業1710万ドル、私有財産100万ドル)

台風 Utor は、さらにその後台風 Durian と共に中国を襲い、南部に多くの被害を与えました。広東と広西チワン族自治区が最も大きな被害を受け、7月9日現在、合計で33名の死者、8,298の負傷者、10万世帯が倒壊するなどの被害が報告されています。

□ インドにおける洪水で被害

先週末の豪雨によってインド東部オリッサ州の16地域において洪水が発生しました。7月16日現在、23人が亡くなり、332万人が影響を受けていると報告されています。400の村落で25,000人が孤立化しており、20,000人が住居を失いました。

(国連 OCHA Situation Report など)

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行: Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 1HDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料: 無料 / 毎月2回発行(予定)